

棚田学会

第11回若手研究者発表会

日時 2012年2月25日(土) 14:00~17:00 (受付 13:30より)

場所 早稲田大学文学学術院 39号館 6階 第7会議室 (別紙地図参照)

発表-1

演題 棚田を場とした学生の交流 -棚田どろんこバレーボール大会-

発表者 谷津 祥太郎 氏 (東京大学大学院新領域創成科学研究科 修士1年)



2006年 イリノイ大学アーバナシャンペーン校農業工学部土水資源工学科入学 (2010年卒業)

2011年より東京大学大学院新領域創成科学研究科国際協力学専攻修士課で履修中

発表の概要

千葉県鴨川市の大山千枚田では毎年5月末に「棚田大学・泥んこバレーボール大会」が開催されている。大山千枚田では、棚田オーナー制度を始めとする様々なエコツーリズム事業が展開されているが、それらの事業やイベントが地元の人たちによって運営されているのに対し、棚田大学・泥んこバレーは首都圏の大学生によって企画・運営されている。また、同大会は農村とスポーツを一つにしたエコツーリズムという点でも珍しいイベントである。

発表-2

演題 暮らしが育む文化的景観 -新潟県松代町における考現学的調査を通じて-

発表者 柳沼 優樹 氏 (早稲田大学大学院創造理工学研究科建築学専攻 修士2年)



2005年 3月 横浜市立桜丘高等学校卒業

2006年 4月 早稲田大学理工学部建築学科入学

2010年 4月 同大学大学院創造理工学研究科建築学専攻
後藤春彦研究室に入学

発表の概要

新潟県十日町市旧松代町では、国道が整備されてから大型量販店に通いやすくなり、旧県道沿いの商店街が活気を失っています。そこで、雪国の暮らしが育んだ貴重な商店街の景観を守るために、考現学的な調査を行ないました。河岸段丘の間に直線上に連なる商店街の景観を600mに渡ってスケッチし、「雪下ろし」の習慣によって育まれた文化的景観を探し当てました。この一連の流れをまちづくり計画として立案した作品を発表します。

発表－3

演 題 棚田保全のための村落共同体による水源林管理 -中国龍脊棚田地域を事例に-
発表者 菊池 真純 氏 (早稲田大学国際教養学部 助手)



2005～2006年 広東培正学院大学・専任講師 (中国広東省)
2006～2008年 青島理工大学・専任講師 (中国山東省)
2011年 早稲田大学アジア太平洋研究科博士課程修了 (学術博士)

発表の概要

中国農村には村落共同体が存在しないという日本の学界での通説と、新中国の法律は旧法を継承していないという中国の学界における法の継承性に関する通説が存在する。

本研究の調査地である村は、少数民族の瑶族が棚田耕作を中心とした自給自足の生活を600年以上継続してきた地域である。村では、水源である森林に関して、経済林を各戸に分配する一方で、棚田を守るために水源林を今日まで伝統的に村全体の請負責任山として集団所有している。本研究では、今日まで一貫して水源林を集団所有によって管理している体制が、大寨村のいかなる伝統的価値観・規定に基づいているのかを調査した。また共同で自然資源を管理・利用する強固な村落共同体の存在についても調査した。さらに、これらの調査結果を上記の2つの理論に照らし合わせて考察を行い、それらに対するの反論と新たに本研究の見解を示す。

参加費 棚田学会員、学生は無料、一般参加者は500円

懇親会 17:30～19:30 早稲田大学の「楠亭」にて 参加費:5000円程度

お問い合わせ 棚田学会事務局 東京農工大学農学部地域生態システム学科千賀研究室
E-mail: tanadagattukai@yahoo.co.jp
(cc 研究委員会幹事 : k-yasui@qf7.so-net.ne.jp)
FAX: 042-385-1180

参加申し込み 氏名、連絡先を明記のうえ、E-mail または FAX でお申し込みください。

若手研究者発表会参加申し込み

談話会 懇親会 (ご希望のところにレ印をお付けください)

名前 _____ 会員 学生 一般

連絡先 〒 _____

TEL _____ FAX _____

E-mail _____

会場案内

早稲田大学戸山キャンパス (東京メトロ東西線 早稲田駅より徒歩約5分)

